

プロジェクト科目 議事録

2006年 11月 5日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名 E	学生 ID -
日時	2006年 10月 31日(火) 15:30 ~ 18:00
場所	寒梅館会議室 1 A (15:30~17:00)、ミーティングブース (17:00~18:00)
議題	○総括に基づいたサイトツリーの作成について ○G案の見直し
参加者	A, B, E, G
記録	<p>【参考資料】 プレゼン合宿でのGの企画案 (e-class) サイトツリー: D (PCML)・A・G・H (手書き) 企画見直し案: D (PCML)・H・C (e-class)</p> <p>【会議の流れ】 ◎サイトツリーについて 〈サイトでアピールすべきことと役割〉 1. サイトツリー案の比較 2. 項目の分類の仕方 (参照・話し合いで整理したサイトツリー) ☆今後の課題</p> <p>◎WS 企画案の練り直し 〈どこを変えて、どこを変えないでおくべきなのか〉 1. 練り直し案の比較 2. 企画を「感情表現」にしぼることについて 3. 事前学習のあり方 4. 小学校・能楽師に打診する際必要な項目</p>

【会議内容】

◎サイトツリーについて

前回の講義の復習もかねて、サイトツリーの果たす役割と、サイトでアピールすべきことについて話し合った。

〈サイトツリーの役割〉

- ・サイトツリーは、サイトに必要な素材を集めたり、タスク表を作ったりするためにも必要
- ・伝えたい情報を整理・分類することが目的である

〈サイトでアピールすること〉

- ・トップページは、能プロの趣旨、「ウリ（独自性）」をわかりやすく表現する
(前回講義では、Aが「つなぐ」というキーワードを挙げた)
- ・研究部分（WSを振り返り、比較検証し、次の企画に反映させる）が、わたしたちの独自性であり、ここを伝える必要がある

1. サイトツリー案の比較

提出されたサイトツリー案を比較してみると、総括を行ったためか、大きな項目はそろっていた。ばらつきが出ているのは、研究部分（総括・比較検証）の末端の項目である。

「研究」が能プロの独自性であるならば、この項目をわかりやすく整理する必要がある。

2. 項目の分類の仕方

提出されたサイトツリー案を比較して、それぞれの項目の目的がわかりやすかったのがA案である。A案は、4つの問い（大項目）に対する答えを、小項目としてぶらさげる形式である。今回の会議では、A案の形式を土台としたので、後に記すツリーを参考にしてもらいたい。

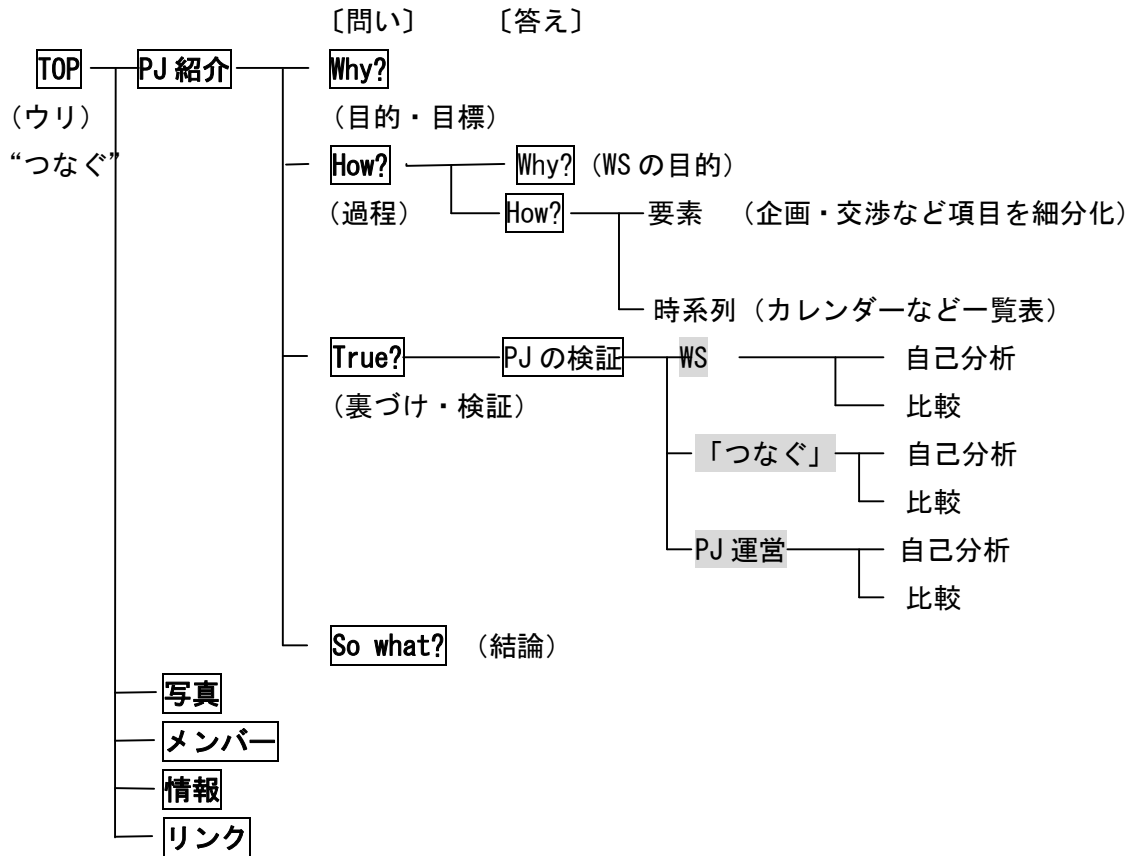
話し合いの中で、「7月WSの企画時、コンセプトを『将来の愛好家の卵を育てる』と考えたが、これはWSについてのコンセプトであり、プロジェクト全体のコンセプトは別にあるのではないか」という意見が出た。

7月WS 第一次企画書の冒頭にあった「若者の伝統芸能離れ」についての記述が、プロジェクト全体をつらぬく「コンセプト」に近いのではないか、という意見も出た。

☆サイトツリーについては、まだまだ具体性がないので、さらに小さな項目をつめていく必要がある。

※参考資料

【話し合いで整理したサイトツリー】



《補足》

- Why?** . . . なぜこの取組みをしたのか (目的・目標)
- How?** . . . どうやってやったか (過程)
- True?** . . . 裏付け・検証 (比較・総括)
- So what?** . . . 結論

◎WS 企画案の練り直し

総括を終えて、G作成の企画案の改善すべきところ、残すべきところについて話し合った。

1. 練り直し案との比較

C・D・H提出の練り直し案と、Gの原案とを比較して、それぞれが変更を加えている点について話し合った。

(すべてを比較する時間がなかったので、話し合った部分だけを記した)

【G案と練り直し案との比較】

《目標》 G案：能特有の魅力を感情表現にしぼって伝える

D案：能特有の魅力を感情表現だけにしぼるのはどうか

《事前学習》G案：1～2回

C・H案：1回

2. 企画を「感情表現」にしぼることについて

Gの原案の特徴は、体験がメインだった7月のWSに比べて、鑑賞に重点を置いていることである。

Dの指摘と同様に、感情表現だけをくわしく学ぶWSの形は不安だ、という意見があった。感情表現のみでは、ピンポイント過ぎて児童の気持ちが離れるのでは？という懸念がある。また、能の魅力については、見た人によって感じ方が異なるものであり、「能の魅力は感情表現」とこちら側で決め付けてしまうのはいかなものか、という意見もあった。

ここで、2つの企画案が出た。

①：本物（能楽師の仕舞）・展示（能舞台）・体験（感情表現）の3つの柱を用意する案

②：感情表現にしぼって、体験と学習（鑑賞）を行う案

〈①案のメリット〉

- ・能についての知識を広くつけてもらえる
- ・7月のWSで、児童が自分で体を動かすことが、学びの有効な手段であるとわかっている
- ・飽きさせない工夫ができる
- ・何らかの形で「本物の舞台」を見せることで、児童自身に能特有の魅力を判断してもらえる

〈①案のデメリット〉

- ・この3つの柱では、前回と同様の企画になりはしないか
- ・「広く浅く見せる」WSは、ほかの団体も多くやっているのではないか

〈②案のメリット〉

- ・ 7月のWSで定着した能についてのイメージが、さらに深い知識となる
- ・ 感情表現に特化したWSはあまり例がない
- ・ 感情表現は能独特のものであり、感情表現をよく知ることで鑑賞への足がかりとなる

〈②案のデメリット〉

- ・ 感情表現にしぼり込むことは、児童にとってわかりやすいものとなるのか
- ・ 感情表現に児童が飽きた場合、代替するものがない

ここで、この2つの案のいいところを取り入れた折衷案（例：能が象徴劇であることを伝えるために、簡略化された舞台・作り物を展示、感情表現を体験）にするのはどうか、という意見が出されたが、時間がなくなったため次回講義で継続して話し合うことになった。

ただし、どちらの案が採用されても、

- * 7月のWSのような発表会はしない
- * ツアー形式にはせず、校舎内を移動する形式はとらない

ということになった。

3. 事前学習のあり方について

事前学習を行うのか、行うとすればどれくらいの時間で、何回、どのような内容で行うのか、ということについて話し合った。

面の作成は、誰もが提案した事前学習案であるが、その理由は「面は感情表現に重要なアイテムである」ということである。

- しかし、
- * 面作成キットについてのリサーチができていない
 - * 面をメンバーで試作し、有効な事前学習かどうか判断しなくてはならない
 - * 面作成に、児童がどれだけの時間を要するのか不明
(何時間も割いていただくわけにはいかない)

などの理由で、事前学習として面を作成するのは困難である、と一致した。

Gの企画書によると、他にも事前学習の案が出ているが、11月に入ったこともあり、

- * これから企画をつめて、授業時間をいただくのは難しい
- * WS本番で完結する学びのプログラムを考えればよい

との意見から、時間をとっての事前学習は行わないことで一致した。

※7月のようなプリントを利用した事前学習は、必要に応じて考える。

4. 小学校・能楽師に打診する項目

小学校は学期末で、通常の授業時間をいただくことになるだろう、ということが7月のWSと大きく違う点である。

* 2クラスを合同で行うのか、別々に行うのか

(別に行う場合でも、同日開催にしてほしい、と伝える)

* WSの時間は2時間か、1時間か

(時間によってプログラム内容の変更もありうる)

これらを問い合わせて、WSのアウトラインを決めていく必要がある。

また、能楽師の繁忙期でもあるので、能楽師のスケジュールと小学校のスケジュールを考えながら企画を進めなければならない。

打診の時期、企画の内容をどこまで具体化してから伝えるかなど、さらに話し合いが必要である。

【次回話し合いまでに】

- ・サイトツリーをさらに詳しく考えてくる
- ・企画の練り直しをより具体的に考えてくる